



1. クラフト作家におすすめの商品を聞きながら商品を選ぶ / 2. 景品が当たるスタンプラリーを開催 / 3. 色とりどりのポピーが来場者を迎える / 4. 地元グルメの「伊達鶏メンチカツ」は完売するほどの人気ぶり / 5. 似顔絵ワークショップを体験する子どもたち

「自慢の逸品が集結」

5月27日から28日まで、「第8回モノ作りびとフェア in つきだて花工房」が開催されました。会場では、全国各地から腕自慢のクラフト作家が集まり、自慢の作品を展示販売。雑貨や革小物、アクセサリーなどがずらりと並び、来場者たちは作り手と交流を深めながら、お目当ての品々を買って求めていました。木工クラフト、似顔絵、バルーンアートなどの体験コーナーも設けられ、子どもたちの人気を集めました。2日間で約7,000人も来場者が訪れ、大きなにぎわいを見せました。

市長日誌「城崎温泉」

兵庫県の日本海側にある豊岡市は、日本で最後の野生のコウノトリの生息地として知られていますが、健康都市の取り組みでも先進的な都市でもあります。伊達市では平成27年から取り組み始めた「元気づくり会」のような「玄さん元氣教室」を平成24年から開始し、既に100以上の地区で展開している他、アスレチックやプールを備えた大型の健康増進施設「ウェルストーク豊岡」を早い時期に始めています。

今年の健康都市の全国会議は、その豊岡市の城崎温泉で開催されました。城崎温泉は平安時代に開湯され1300年の歴史ある温泉として知られていますが、その温泉としての風情情緒には素晴らしいものがあり、感銘を受けました。

温泉街の中心には両岸に柳の木が植えられた川があり、古風な石造りの太鼓橋と共に何とも言えない風情を醸し出す中、旅館の浴衣を着て下駄を履いて歩いている姿はこれぞ温泉という思いを強く感じるところです。外国人の観光客も含めてたくさん人が浴衣姿で散策するのはなぜなのか。

それは、城崎温泉が外湯方式だからです。

一般に温泉では旅館の中にあるお風呂に入るのが当たり前で、これを内湯と言いますが、城崎では温泉街に7つの外湯と称する大きな湯があり、お客は浴衣を着てそれぞれ個性ある湯に入り歩き、「湯めぐり」をするのが特徴です。ですから、浴衣姿で歩いている人が多いのは当然で、そのため、土産屋射的などの遊技場、飲食店などが多く、また繁盛もしています。いわば、城崎温泉全体がひとつの旅館のように運営されているのです。

城崎温泉は大正14年に北但馬地震で全焼してしまつたのですが、再建に当たっては、和風木造3階建てに統一して町並みの景観を維持しつつ、内湯の規模を制限して以前からの外湯方式を踏襲してきたとのこと。つまり、今日の繁栄は城崎温泉町民の永年の努力の賜物なのです。

翻つて、我々伊達市も健康都市、歴史観光のまちづくりなどに取り組んでいます。何事も市民挙げて努力することの大切さ、必要性を強く感じました。

